

第14回 稲門建築会特別功労賞

尾形 一郎(苗S58)、優(苗S62)

写真家

表彰理由：

両氏は大地や民族や、文化、風土に依拠して、そこから生まれた都市や建築、またさまざまな芸術や表現を追い求めて、1990年代から今日まで写真作品を展覧会、写真集、雑誌等で世界へと発信を重ねてきた写真家である。世界が近代化される過程で、様々な地域の土着的なものが、個別的なものが、生命観あるものが擦過され、忘却に付されてきたことは否めない。そのような流れの中で、早稲田建築という風土で育った写真家は、それに迎合せず、静かに世界の各地にある、その場所に歴史的に根付いた現象、建築や風土、それらを包み込む総合的な世界を写真記録として残してきた。たとえば、両氏の代表作である『ウルトラバロック』の対象であるメキシコの装飾過剰をその本質とする教会堂の在り様は、20世紀の建築思潮においては取り上げられようもないものであったろう。土俗的で、民衆の信仰を土台とする建築空間は、建築や芸術分野において、静かな衝撃となって受け止められた。早稲田建築という場所で見つかり取ったものを、長い年月の積み重ねを通して、写真表現によって、世界に発信し続けてきた両氏は、早稲田建築の系譜に大きな業績を資すると思う故に、ここに稲門建築会特別功労賞に推薦させていただきます。(推薦者 入江正之)

略歴

- 尾形一郎 (おがた いちろう、旧姓 小野一郎)
1960年 京都生まれ
1985年 早稲田大学院理工学研究科建築計画修了
- 尾形優 (おがた ゆう)
1964年 東京生まれ
1987年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
- 主な写真集・著書
「HOUSE」フォイル、「極彩色メキシコ巡礼」晶文社、「MEXICO:BAROQUE」、「MEXICO:HOTELS」アスペクト、「ウルトラバロック」新潮社
- 主な個展
2010年 ときの忘れもの、2009年 FOILギャラリー、2001年 エプサイト、アクススギャラリー、1997年 タワーギャラリー、三菱地所アルティウム、141

二会場同時開催
ナミビア:室内の砂丘
尾形一郎 尾形優 写真展

Namibia: Internal Sand Dunes
YU OGATA & ICHIRO OGATA ONO
May 30 - June 11, 2011

11:30 - 18:30
Closed on Sunday

W ときの忘れもの
12:00 - 19:00
Open during exhibition

料金別納
郵便

二会場同時開催
ナミビア:室内の砂丘 尾形一郎 尾形優 写真展

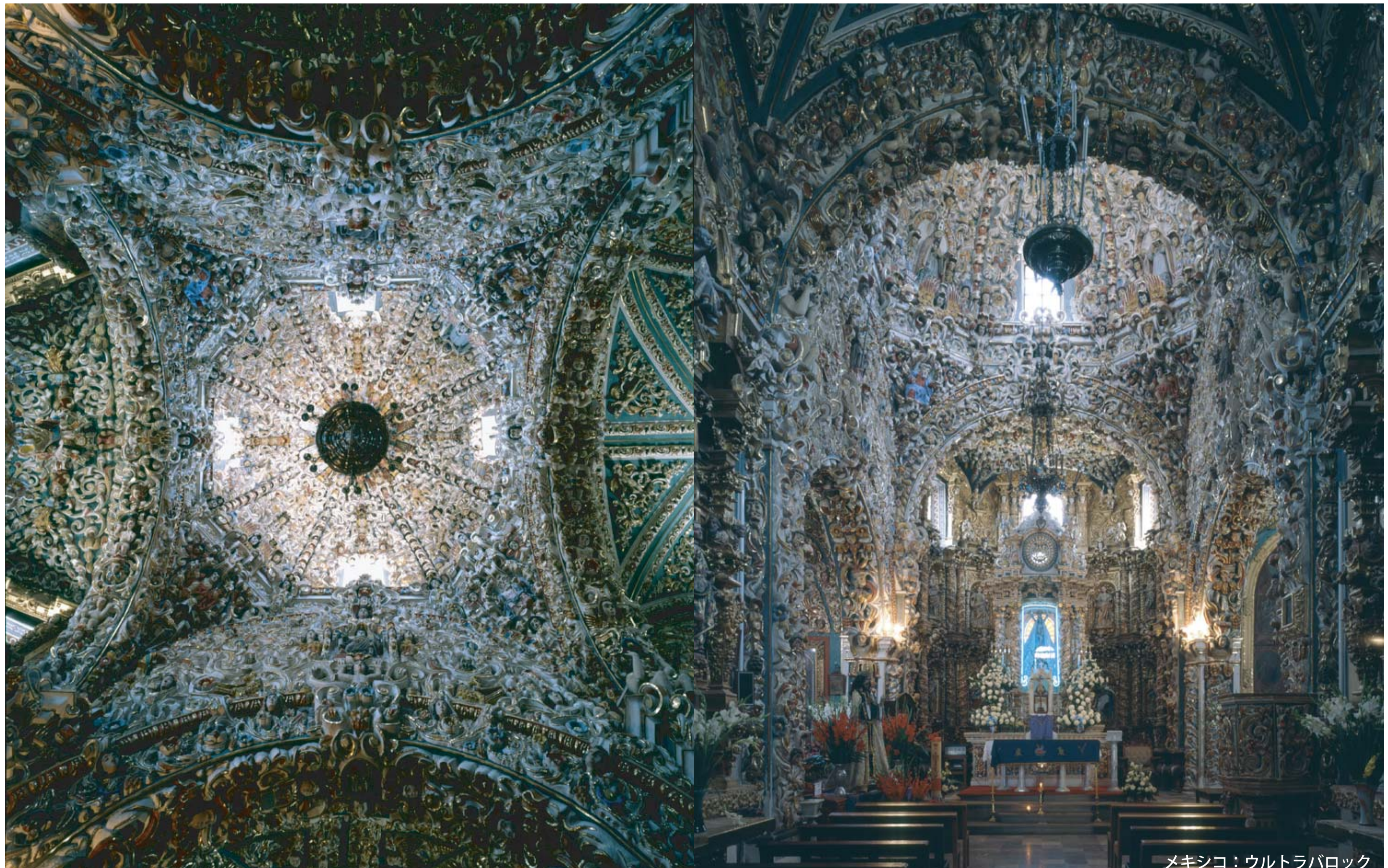
2011年5月30日(日) - 6月11日(日)

11:30 - 18:30 (最終日延長)
ときの忘れもの(南青山)
12:00 - 19:00 (会期中無休)

〒104-0061 東京都中央区銀座6-10-7 東成ビル1F
Tel: 03-3573-2468 Fax: 03-3573-5678
http://gallery.yuho.com/

〒107-0062 東京都港区南青山3-3-3 青山Cube 1F
Tel: 03-3470-2631 Fax: 03-3401-1604
eMail: info@tokinowasuremono.com
www.tokinowasuremono.com

アフリカの砂漠に残された100年前の家々の遺跡を撮影したシリーズ(室内の砂丘)を、銀座と青山の二会場同時開催でご覧いただけます。ギャラリー一枚いほうでは大作7点、ときの忘れものでは20点程のポスターフォリオをお出品します。
初日5月30日(日)17時~19時まで、銀座のギャラリー一枚いほうでオープニングを開催します。



メキシコ：ウルトラバロック



HOUSE Yu OGATA & ICHIRO OGATA ONO

写真集「HOUSE」

中国：洋楼

沖縄：構成主義

ギリシャ：鳩小屋

日本：サムライバロック